

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|--------------------------|
| 事業所名 | グループホームあさひ |
| (ユニット名) | もも |
| 所在地 (県・市町村名) | 三重県三重郡朝日町小向2064-1 |
| 記入者名 (管理者) | 中津 裕美 (副ホーム長・ももユニットリーダー) |
| 記入日 | 平成 20年 8月 7日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) | |
|----------------------------|---|---|----------------------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| <input type="checkbox"/> 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ホーム独自の理念を作り、入居者がホームにおいてゆっくりと楽しく過ごせるように、そして、職員や他の入居者と家族のような温かい関係が築けるよう取り組んでいる。 | ○ | 事業所独自の理念はあるが、「地域の中で」という視点からの理念ではないため「地域の中にある施設として、どうあるべきか」という視点を持ち、理念を構成しなおしていきたい。 |
| <input type="checkbox"/> 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ケア会議では理念に基づいて話し合いを進めるようにしている。 | | |
| <input type="checkbox"/> 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 玄関に理念を掲げ、誰の目にも届くように工夫している。 | ○ | ご家族や地域の人々と当ホームの理念について、話し合いを持つということがなかったので、運営推進会議などでホームが地域に貢献できることは何か話し合っていきたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| <input type="checkbox"/> 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 散歩や町の行事で顔を合わせると挨拶をしたり、入居者の介助を手伝っていただいたりしている。 | | |
| <input type="checkbox"/> 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 朝日町主催の行事に招待していただき、地元の方との交流がある。しかし、老人会、自治会への参加はしていない。 | ○ | できれば自治会、老人会への参加をすすめていきたい。また、自治会の会長の方や、民生委員の方にも、運営推進会議に参加していただけるように、働きかけていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域の暮らしに役立つことができないか職員や地域の方と話し合ったことはあるが、実際に取り組んではいない。どのようなことに取り組んだら良いのか検討中の状態である。 | ○ | 隣近所の方に喜んでもらえるようなことを、ホーム入居者を中心に行っていきたい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価に対しては、その結果を受け止め改善に努めるようにしている。 | ○ | 評価の項目を職員全員に読んでもらい、改善にむけた対策について、全員で考え、取り組んでいくようにする。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者と会話してもらい、様子を見てもらうことで、サービスの実際や取り組み状況を見てもらっている。 | ○ | 話し合いでの意見を、もっとサービス向上のために活かせるようにしたい。 |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 入居希望者を紹介してもらったり、困難事例の相談をしている。 | ○ | 連携をとりやすい様、市町村担当者の方の中に、定期的に相談できる方をつくっておき、今よりも密に、連携をとっていきたい。 |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 管理者はそれぞれの制度や事業について、社会福祉協議会の職員に質問、相談できるようにはしているが、他の職員がそれらの事を学ぶ機会には設けていない。 | ○ | 勉強会を行い、職員の理解を深めていく。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | どういことが虐待につながるのかについて話し合いそのようなことがないように注意を払っている。 | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|---|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分に利用者や家族の気持ちや思いを聞き取るようにし、納得がいくまで話し合いの時間を設けるようにしている。また、不安や疑問があれば、いつでも連絡をいただけるようお願いしている。 | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 介護相談員の訪問があるため、そのときに利用者の気持ちを聞いていただくようにしている。そして、その内容をホーム職員に伝えていただくようにしている。 | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時に日頃の様子や金銭管理、健康状態について報告している。また、日常の様子を撮った写真を、ご家族に見せたり、郵送することで利用者の暮らしぶりを伝えるようにしている。 | ○ 遠方に住んでいるなどの理由で、なかなか面会に来れないご家族のことを配慮し、たよりを送る回数を増やしていく。 |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居時に苦情や意見はいつでも言ってくださいと伝えている。また、玄関に意見箱を設置している。苦情や意見をいただいた時には職員同士で話し合い、できるだけ意見にそえるように努力している。 | ○ (玄関に意見を書く用紙を置いておくだけでは記入しづらいと思われるので) 具体的に、質問事項を書いて答えやすくするなどしたアンケート用紙をご家族の所へ郵送するなどし、意見を出しやすくしていく。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者が職員の意見を聞き、それを運営者に伝えるようにしている。 | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 利用者、家族の要望に応えるためにも、調整に努めている。 | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | できるだけ、異動のない様に配慮しているが、やむを得ない場合もあるため、自分の配属ではないユニットの利用者とも交流をもつ様に心がけている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) | |
|----------------------------------|---|---|----------------------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修は必要に応じて受講できるようにしているが、計画的ではない状態である。 | ○ | 研修の受講計画や育成のための計画を立てて、学べる機会を増やしていきたい。 |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 勉強会があれば参加しているが、ネットワーク作り、相互訪問の活動はしていない。 | ○ | 隣町のグループホームや、町内の他施設と交流を持ち、地域全体でサービスが向上するように取り組んでいきたい。お互いの施設を見学しあったり、勉強会を行ってきたい。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 職員の交流会を行い、日頃ストレスに感じることなどを打ち明けられるような工夫をしている。一人で抱え込まずに、皆で共有できるような関係作りを目指している。 | | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 管理者は運営者とこまめにコミュニケーションを図り、職員の様子やそれぞれの努力を伝えている。その頑張りに応じた配慮がされている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | できるだけ、ご本人の気持ちを受け止めるようにしたいが、入居前にご本人と面談する機会を多く取れないため、困難な状況である。 | ○ | 入居前の面談の機会を多くし、ご本人の気持ちや不安を聞き取れるようにしたい。 |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | ご家族との面談はこまめに行っている。不安なことがあればいつでも相談にのれるようにしている。不安な気持ちを解消できるように努めている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|------|--|
| 25 | <p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> | | |
| 26 | <p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | ○ | <p>少しでもスムーズにホームの雰囲気に慣れることができるように、ホーム行事への参加なども検討していきたい。</p> |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 27 | <p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | | |
| 28 | <p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p> | | |
| 29 | <p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p> | | |
| 30 | <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | | |
| 31 | <p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p> | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 利用者や家族の希望があれば関わりをもつようになっている。 ホームの行事へ招待するなどしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | できるだけ本人の希望をくみ取るようになっている。希望や思いを訴えることができない利用者の中には、ご家族の意向も交えながら、できるだけ気持ちにそえるように検討している。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者本人や家族からこれまでの生活の仕方を聞き取り、できるだけその暮らし方に近い形で生活できるように工夫している。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 利用者一人ひとりの様子を個人記録に記し、1日の様子を職員が把握できるようにしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 職員が日々の生活の中で利用者本人や家族の気持ちを聞き取るようになっている。また、それぞれの職員の感じたこと、気付いたことなどをケアカンファレンスで話し合っ、介護計画を作成している。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 職員が記入する個人記録を見て、入居者の状態を把握し、入居者の状態に変化が見られれば、介護計画を見直し作成している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|--|--|------|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者の記録はSOAPを用いて個人の記録に記入し、全ての職員が必ず目を通して情報を共有している。また、その記録を基に、介護計画の見直し・評価を行っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | グループホームとしての支援は行っているが、それ以外の支援は、現在は検討中である。 | ○ | 認知症についての勉強会を行うなど、グループホームとして行えることを考え、実現に向けて努力していく。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | ボランティアや介護相談員の訪問時は、本人の希望にあわせている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 現在、他のサービスを利用している人はいない。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括支援センターから、ホームへの訪問もある。現在、権利擁護などが必要な利用者はいないが、今後、そのようなことが必要になった場合は、連携がとれるように話し合いはしている。 | ○ | 権利擁護についての勉強会を地域包括支援センターと協力して、職員やご家族も交えて行いたい。 |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に本人、家族に確認している。今までのかかりつけ医への受診を希望される場合はそれに合わせている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|----------------------------------|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | 必要に応じて専門医への受診をすすめている。 | ○ 専門医が定期的に往診してくれるような体制を整えたい。 |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | ホームに勤務している看護職員と介護職員が相談しながら、利用者の健康管理に努めている。入居者の容体が急変した場合、看護職員に連絡し、対処の仕方について指示をもらうという体制ができている。 | |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | 入院先との連携は日頃から密にとるようにしている。できるだけ早く退院できるように相談している。 | |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | 入居時に家族、本人の気持ち(可能な場合)を聞き取り、医師、職員も交えて話し合いを持つようにしている。医師と家族が揃わない時は医師にご家族の思いを伝え、意思統一ができるように努めている。 | |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | 日頃から、ホームとしてできること、できないことを家族、本人(可能な場合)に説明し、疑問や質問に答えられるようにしている。そのうえで、どのように支援していくか話し合っている。 | |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | 家族や移動先の職員とも情報交換を行い、できるだけダメージがないようにしている。 | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|---|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 一人ひとりに合わせた対応を心がけている。職員で話し合い、個々に合った言葉かけができるように努めている。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | できるだけ利用者が自分で決定できるように支援している。それぞれに合わせて言葉かけを工夫し、できるだけ気持ちを抑えることがない様に支援している。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはもっているが、職員はできるだけ利用者一人ひとりのペースに合わせて支援していけるように努めている。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 毎朝、自分の好みの服を選んだり、入居前に行きつけだった美容院や洋服店へ行ったりできるよう支援しているが全員ではない。 | ○ 全員が行きつけの店へ行きたいという希望があるわけではないが、その人らしい髪型を選べられるような言葉かけや支援ができるようにしていきたい。また入居者から、新しい服が欲しいなどの希望があれば、デパートへ行き、好みの服購入してもらえるようにすることも検討していく。 |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 配達業者に食材の配達には頼っているが、調理、片付けなどは、一人ひとりの力に合わせてやってもらえるように支援している。また、誕生会などの行事の際は、入居者に食べたいものの意見を聞くなどして、メニューを決め、スーパーで食材を買うこともある。 | ○ 普段の日でも、入居者の食べたいものを献立に取り入れた日を作るなどしていきたい。 |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒、たばこ、おやつなどは利用者の好みに合わせて支援している。ただ、過度に摂取しないように注意もしている。おやつは、買い物外出の際、入居者に好みの物を選んで買ってもらうなどしている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|---|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 尿意を訴えられない入居者には、排泄チェック表を使用して定期的にトイレに誘導したり、入居者それぞれのシグナルを汲み取って、トイレで排泄していただけるようにしている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴できる時間帯は決まっているが、入居者の希望する時間に入っている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 日中を活動的に過ごすことで、夜、快眠できるように支援している。夜間眠れなかった利用者には、必要に応じて昼寝をしてもらうなど睡眠不足にならないよう心がけている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 洗濯物たたみが自分の仕事だと張り切ってされる方もあれば、ぬり絵やちぎり絵、編み物を楽しみ、それを発表することで喜びを感じている方もある。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | なくしたり、他の利用者にお金をあげるなどのトラブルもあるので、基本的にお金は「家族から預かる」という形で預かっている。だが、入居者によっては買い物時は、自分でお金を払っていただけるようにお金を渡す工夫もしている。また、本人のお小遣い帳と一緒に確認するなどしている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 喫茶店や買い物に出かけられるようにしている。遠くへ出ることが難しい場合には、庭の花を摘んだり、草をむしったりすることなどで、戸外の空気を吸えるように工夫している。 | ○ | 外へ出ることを拒否される方もあるので、その気になるような言葉かけをするよう工夫して、少しホームの周り歩くなど、運動不足にならない様に、こまめに外に出ただけようようにしていく。 |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族と行きつけのお店に食事に行ったり、旅行に行かれる入居者もある。また、ファーストフード店の広告を見て「これが食べてみたい」と利用者が言われていたため、近くの喫茶店にチーズバーガー食べに行ったこともある。 | ○ | 左記の事柄は、一部の利用者だけができてきていることである。他の利用者からも希望を聞きだせるようコミュニケーションをもっと密にとり、外出の機会を作り出していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|---|--|------|--|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は希望時には、かけられるようにしている。回数が多くなることで家族が負担に思うような場合は、電話から気がそれるような工夫も考えている。 | ○ | 家族や友人の方との年賀状のやりとりは行っていただいているが、それ以外での手紙のやりとりの支援はほとんど行っていないので、定期的な手紙のやりとりも、できるように支援していく。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 面会は自由にできるようにしており、居室でゆっくりと過ごしていただいている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | どのようなことが身体拘束なのか話し合いながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | ○ | 現状の支援の中で、言葉のかけ方や安全に重視しすぎることで、身体拘束にもつながっていないかということ、日々再確認しながら取り組んでいこうと考えている。 |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関をなるべく施錠しないよう取り組みを行ってきたが、帰宅願望の強い利用者が入居したことをきっかけに1ヶ月前から玄関を施錠しない取り組みが困難になっている。利用者が外出されるときは鍵を開けて外に出られるようにしている。 | ○ | 職員全員が玄関の施錠は利用者にとって抑圧的であることは理解しており、鍵をかけない支援をしていきたいと考えている。時間はかかると思われるが、鍵をかけない支援ができるよう工夫していく。 |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 一人ひとりの活動を見守り、危険のない様、注意している。夜間は、2時間ごとに(見守りを強化している方は1時間ごとに)巡視を行い、入居者の様子を確認している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 刃物などの危険なものは、利用者の手の届かない場所に保管している。はさみ、爪きりなど、自分で使うことのできる利用者には、見守りのもと使用してもらえるようにしている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 利用者それぞれに注意しなければならないポイントがあるため、それを把握し事故防止に取り組んでいる。また、ヒヤリハットを記録しており、各入居者に起こりうる事故の共有意識を図っている。 | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|------|--|
| 70 | <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> | ○ | 災害に備えた備品(食料など)の準備が十分にできていないので職員で話し合い、準備を行っていく。 |
| 71 | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> | | |
| 72 | <p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p> | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 | <p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> | | |
| 74 | <p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> | | |
| 75 | <p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> | | |
| 76 | <p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|------|---|
| 77 | <p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | | |
| 78 | <p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> | ○ | 職員全体が日頃から感染症に対する危機意識を持ち、常に新しい情報をチェックするようにしたい。 |
| 79 | <p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p> | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | <p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p> | | |
| 81 | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | | |
| 82 | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|------|----------------------------------|
| 83 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | | |
| 84 | <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p> | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 85 | <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | | |
| 86 | <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p> | | |
| 87 | <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p> | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="radio"/> | ①ほぼ毎日のように |
| | | <input type="radio"/> | ②数日に1回程度 |
| | | <input type="radio"/> | ③たまに |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> | ①大いに増えている |
| | | <input type="radio"/> | ②少しずつ増えている |
| | | <input type="radio"/> | ③あまり増えていない |
| | | <input type="radio"/> | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働いている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての職員が |
| | | <input type="radio"/> | ②職員の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③職員の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | <input type="radio"/> | ②家族等の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③家族等の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体が歯科であるので、口腔衛生には力を入れている。毎食後の口腔ケアに加えて、月1回、歯科衛生士の口腔清掃、嚥下訓練、体操を行っている。職員に対する口腔ケアの勉強会も開催している。また、今年から同じ敷地内に重度の方でも入居できる介護付き有料老人ホームが開設し、重度化された御利用者様の、移設などの相談も受けられるようになっている。職員同士の連携をとり、行事を介して入居者同士の交流も盛んになってきている。